

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	YF	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	3	派遣国	カナダ
派遣大学	メモリアル大学		
期 間	2024 年 9 月 4 日～ 2025 年 4 月 22 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	○
滞在費	約 (13 万) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (0) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

滞在先2

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (15 万) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (2) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

グレンフェルキャンパス

項 目	金 額	内 訳
食費	6万円	学内カフェのフードパス

学用品購入費	2500 円	教科書代
交通費	0 円	
交際費	1000 円	遊びに行った施設の入館料等
その他	円	

合計

約 63500 円

*概算で記録してください。

セントジョンズキャンパス

項 目	金 額	内 訳
食費	15 万円	寮費と食費がセットになっている
学用品購入費	2500 円	教科書代
交通費	2000 円	バス代
交際費	1000 円	遊びに行った施設の入館料等
その他	円	

合計

約 155500 円

*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

両キャンパスとも比較的田舎にあるため、治安が悪いと聞いたことも感じたこともありません。しかし、グレンフェルキャンパスの方では「ムース」と呼ばれるヘラジカが両周辺に一度出没し、学校アプリにて警告が周知されました。被害はなかったようです。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(約 9) ヶ月間	保険料	(93080) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	() ヶ月間	保険料	() 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ コーナーブルック ）

コーナーブルック（Corner Brook）は、カナダ東部のニューファンドランド州にある都市で、ニューファンドランド島西部では主要都市に当たります。人口は周辺地域を含めても約 4 万人ほどですが、ニューファンドランド西部の経済や文化の中心になっています。周りは山に囲まれていて、とても自然が豊かなためきれいな景色を見ることができます。夏は比較的涼しい気候となっています。冬はとても寒く -10°C を下回るときもあり、それに伴い雪も多く降ります。

学校からの距離

- ・バス約 15 分でスーパーマーケット
- ・バス約 25 分で商業エリア（スーパー、外食チェーン、家電量販店）

滞在都市／町（ セントジョンズ ）

セントジョンズ（St. John's）は、カナダの東端・ニューファンドランド島にある都市であり、ニューファンドランド・ラブラドル州の州都に当たります。人口は約 11 万人であり、特に漁業が盛んです。この地域では Jellybean Row と呼ばれる、色鮮やかな家が立ち並ぶ住宅街が有名です。気候は、夏は涼しく、冬は雪が多くとても寒いです。

学校からの距離

- ・バスで約 20 分で大きなショッピングモール

【学業編】

1. 大学情報

グレンフェルキャンパス／セントジョンズキャンパス

大学	メモリアル大学	所在地	Corner Brook/St.John's
最寄空港	Deer Lake(YDF)/St. John's International Airport(YYT)	空港からの距離	約 58km/約 6km
空港⇄大学	(車) *移動手段		
学生数	約 17201 人 (全キャンパス)	留学生数	4179 人 (全キャンパス)
学部	• Faculty of Business Administration • Faculty of Education • Faculty of Engineering and Applied Science • Faculty of Humanities and Social Sciences • Faculty of Medicine • Faculty of Nursing • Faculty of Science • School of Music • School of Pharmacy • School of Human Kinetics and Recreation *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Non-specific, Humanities and Social Sciences *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(12)月 グレンフェルキャンパス

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Listening &Speaking Culture &Community	Listening &Speaking Language through literature	Grammar &Vocabulary Reading& Writing	Reading& Writing Culture &Community Grammar &Vocabulary	Listening &Speaking Language through literature
午後	Psychology 1000	Grammar& Vocabulary Reading &Writing	Psychology 1000	Language Lab	Reading &Writing

② (1)月～(4)月 セントジョンズキャンパス

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Sociology 1000 Philosophy 2030	Psychology 1001	Sociology 1000 Philosophy 2030	Psychology 1001	Sociology 1000 Philosophy 2030
午後	Philosophy 1005		Philosophy 1005		Philosophy 1005

3. 履修内容

科目	Listening &Speaking(ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	教科書の流れに沿って、listening と speaking の問題を解く。 グループワーク有り		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Culture &Community (ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	老人ホームで生活する方達と文通し、実際に訪問して交流した。		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Language through literature (ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	英語で書かれた作品を読んで、そこから単語や表現を学ぶ。 グループワーク有り		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Grammar& Vocabulary (ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	様々な文法や単語を教科書の流れに沿って学習していく グループワーク有り		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Reading & Writing(ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	教科書の流れに沿って、長文を読んで問題を解いたり、テーマに沿った文章を作ったりした。 グループワーク有り		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Language Lab (ESL プログラム)		
履修期間	9 月から 12 月	単位数	0
授業内容／形態	PC を使って、専用サイトで教科書の内容に関する問題をひたすら解く		
成績	ESL 合格		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Psychology 1000(Intro To Psychology)
----	---------------------------------------

履修期間	9月から12月	単位数	3
授業内容／形態	心理学の基礎的な内容を講義形式で学ぶ。 生物の体内構造、睡眠、歴史、学習と記憶など		
成績	B		
YCU 振替予定	科目	留学科目群	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Psychology 1001(Intro To Psychology)		
履修期間	1月から4月	単位数	3
授業内容／形態	講義形式で前期の Psychology1000 の内容の続きにあたる部分に近い内容を学ぶ 動機、パーソナリティ、社会心理学、ストレスなど		
成績	C		
YCU 振替予定	科目	留学科目群	
	単位数	2	
	担当教員		

科目	Philosophy 1005(Philosophy of Human Nature)		
履修期間	1月から4月	単位数	3
授業内容／形態	ソクラテスやプラトン、荘子などの哲学者の著書を読み、そこから考察したことを授業内で交流し、先生がそれをまとめて解説する		
成績	B		
YCU 振替予定	科目	未定	
	単位数		
	担当教員		

科目	Philosophy 2030 (Logic)		
履修期間	1月から4月	単位数	3

授業内容／形態	講義形式で、数字や文字、記号を用いて論理式を解く 論理回路など	
成績	A	
YCU 振替予定	科目	未定
	単位数	
	担当教員	

科目	Sociology 1000(Introduction to Sociology)		
履修期間	1 月から 4 月	単位数	3
授業内容／形態	講義形式で社会学の基礎にあたる部分を学習する。 社会学的視点、規範、記号、家族、犯罪、メディアなど		
成績	C		
YCU 振替予定	科目	未定	
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想

*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

今回の留学を通して、私は多くのことを学び、経験し、感じることができました。中でも特に私自身が印象に残っていることは、英語による会話に対するハードルの違いです。

私は、留学に行く前には、英語はべらべらに話せるか、小学生レベルの表現か、全く話せないかの 3 段階ほどに分かれていて、英語が話せるというのはべらべらに話せることだと考えていました。そのため留学が始まった当初は「全然話せるようにならないけどどうしよう」、「終わるころには話せるようになれているのかな」ととても悩んでいました。しかし、留学先大学の先生や友達と話していく中でその価値観は音を立てて崩れていきました。

留学初期の授業でクラスメイトの前で英語で発表する機会がありました。私は中学生で習うような簡単な英文を発表したため、すごく稚拙な文だと恥ずかしさを感じていました。しかし、先生から「完璧！全然しゃべれるじゃない！」とほめていただけたのです。その時は正直、お世辞だろうと素直にその言葉を受け取ることができませんでした。しかし、後日大学のグループの友達に「うまく英語話せないんだよね。どうやったら話せるようになるかな？」と聞いた時に「何を言っているの？俺たち今コミュニケーションとれてるでしょ。どうしてうまく話せないと思っているの？」と口々に不思議そうに聞かれ、とても驚くと同時に、自身の英会話に対するハードルが必要以上に高かったのではないかと初めて考えさせられました。もちろん物事に対する価値観は人それぞれだし、正解不正解もないと思います。しかし、その自信が建てたハードルが原因で英会話にコンプレックスを感じ、積極的に人と話せなかった自分にとってはとても大きな発見でした。

また、英会話力のレベル、段階についても自分が考えていたものが違っていたと感じました。私が留学の中で感じたのは、英会話力は 3 段階に分かれているのではなく、グラデーションになっているということです。就職などの公的な試験による英会話力の区別があるのはもちろんですが、実際に留学先で過ごす中で、日常的なコミュニケーションにおいてはそのようなもの差しを使うことに違和感を覚えるようになりました。それは、すらすら話せるフレーズや知っている単語、見識の深い領域は人それぞれ異なるということを肌で感じたからです。英語の授業で積極的に話す留学生の子が、専門的な授業の時には全く話せず口をつぐんでいたり、長くカナダに住んでいる子とアニメの話をするときには、日本人の子の方がスムーズに言葉をつないで話していたりする場面を目にし、段階やレベルなどの決まったくりにまとめることが難しいと考えました。

そして、これらの英会話に対する価値観が変わってからは、自身の英会話に対するコンプレックスがかなり薄れ、焦らず、仲間とコミュニケーションを取ることがもっと楽になりました。他の人からしたら、当たり前なことだったかもしれないし、些細な事だったかもしれないけれど、この価値観の発見は自分にとって留学中の大きな学びであり、成長であると感じています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

私は正直、自分の進路や将来をまだ決められていないし、想像もつきません。そのため、「具体的に、この仕事にこのように活かすことができる」ということはできません。しかし、私のこれからの人生において、留学で得たものが必ず活かされるという確信はあります。私が特にそう思えるのは、物事に対する考え方が変化したことが大きいと考えます。それは自らの積極性についてです。出発前、留学を経験した人が、「コミュニケーション能力が上がった」や「いろいろなことに積極的に挑戦できるようになった。」と話すのを聞いていたけれど、実際そんな変わるものかと正直高をくくっていました。しかし、いざ留学してみると自らアクションを起こせるようになったと実感しています。それは、やろうか迷ったときに躊躇することをもったいないと感じるようになったからだと思います。友達に話しかけることや、授業での発表、ボランティアや教授への相談等、私が勇気を振り絞ってやったことは多くあり、その時にはとても緊張しながら実行に移しました。しかし、そのたびに多くのものを得ることができました。もちろん失敗したことも少なくないけれど、自分が勇気を振り絞っていたのが馬鹿らしくなるくらい、すんなり友達ができたり、発表が認められたり、教授と楽しくコミュニケーションが取れたりするなど、勇気にはその対価が存在すること、そしてそれは自分が想像するよりも難しくないということに気づくことができました。この気づきは今後必ず生きてくと思うし、現に今でも役に立っていると確信しています。もしこれから何かを躊躇したり、躓いたりしそうになるときがあっても、この気づきを思い出して、挑戦し続けていきたいです。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

今留学に行くことを考えている人に伝えたいのは、「今、この瞬間を全力で感じてほしい」ということです。これは単に、その時その時でベストを尽くしてほしいということではありません。私も当初は、常にベストを尽くし続けて何かを得ようと必死でした。しかし結局常にベストを尽くすことなんてできなかつたし、できたとしても、新しい環境でとんでもない情報量におぼれながらあがき続けるのは精神的にもしんどいです。しかし、その瞬間を「感じる」ことは難しくないと思います。例えば、現地の料理を食べているときに、「おいしい」と感じる、初めての友達ができて「嬉しい」と感じる、自信をもって臨んだ発表・テストでうまくいなくて「悔しい・つらい」という後悔や無力感に浸る、などなど常にその時の自分の感じたことに浸ってほしいのです。日本で日常生活をしているときには、ルーティン化されたことを繰り返す、特段変わることはない毎日を過ごしている人がほとんどだと思います。その時、自分がすでに経験して感じたことがあるため、それに対して「感じる」ことはかなり少ないです。しかし、住む国が変わり、周りの言語が変わり、関わる人が変わる留学においては、「感じる」ことがいつもの何倍にもなります。だからこそその時に、どんなにネガティブな感情になったとしても自分に正直に、「今こうやって感じているな」とその瞬間を堪能してみてほしいです。きっと、何かを得ようと焦らなくても、その時その時を全力で感じていれば気づかぬうちにあなた自身は変わっていています。自分に正直に留学を「感じ」てきてください。